



NPO 法人 がん患者団体支援機構 (Cancer Patient Support Organization)

発行責任者: 俵 萌子 編集委員長: 中野貞彦、編集委員: 浜中、三浦、古山、若尾、安田

## 第4回がん患者大集会準備、各地でスタート

### <2008年3月15日:第1回実行委員会開催>

2008年3月15日 13時より東京医科歯科大学16階第二セミナー室にて第4回がん患者大集会における初めての実行委員会を行った。それまでに行われてきた準備会をうけ、正式に実行委員会を立ち上げた形となった。第1回実行委員会ではこれからの進め方について基本的な話し合いが行われた。

がんセンターのテレビ会議システムを利用し、全国9カ所を中継して開催することは民間の事業としては初めての試みであるが、がん医療の均てん化のためにはとても有意義なことだと思われる。

ただでさえ体調の悪いがん患者当事者なので、できるだけ身近な会場で全国規模のイベントに参加できる仕組みは理想的だと思われる。これだけ大規模なイベントを行うには、莫大な資金が必要となるが、ボランティアの無償での志だけでは不可能。資金調達のリーダーを逸見、書類作成に緒方、実行部隊に安田を中心とした全員体制で取り組むことが確認された。

第2回実行委員会開催を4月19日に行う事を決めた。

翌3月16日は理事会を行い、第1回実行委員会の決定をうけ、支援機構として共催する事を確認した。また、次回理事会は第2回実行委員会の翌日4月20日に行う事を決めた。

### <実行委員長、各地に飛ぶ!!>

#### 東北ブロックの実行委員会発足

中野実行委員長は各ブロックごとの核をつくるため、連日各地を訪問。3月29日には内田を同行し、盛岡で東北ブロックの立ち上げを行う。青森、岩手、秋田、宮城から13人参加、記者2名の参加があり、報道との連携の可能性が見込め

る説明会となった。実行委員長川守田裕司氏(後日、秋田の田口良実氏に交代)。

#### 四国ブロックで実行委員会立ち上げ

高知の安岡は愛媛県四国がんセンターに挨拶を兼ね下見を終える。研修室は立派で収容人数200名。4月13日には中野実行委員長と前川理事が高松に行って安岡氏と一緒に説明会開催、四国の実行委員会が発足。実行委員長は松本陽子氏。愛媛で患者会おれんじの会を4月27日に発足させた。

### <2008年4月19日:第2回実行委員会開催>

4月19日13:00より東京医科歯科大学B棟16階第2セミナー室にて第2回の実行委員会を行った。実行委員として参加する緒方により、具体的な『制作全体ロードマップ』が提案され、大集会当日までの大まかな流れを把握した。また、喫緊の課題として、具体的な役割分担の必要性が提案され、運営体制の組織図を作成することとなった。翌日4月20日には理事会および総会を開催した。

### <理事会:2008年4月20日 - 東京医科歯科大学B棟大会議室にて理事会を行う - >

理事会では総会準備として事務局住所の増設 理事を20名から25名に増員 監事、中村氏の退任により斉藤氏へ、の3点の審議と、第4回がん患者大集会実行委員会のこれまでの報告等がなされ、新入会員の審議、当会からの会費未納による除名についての報告も行われた。また、7月13日に東京国際フォーラムで開催予定のチャリティイベント準備完了について報告がなされた。

### <総会と講演>

2008年4月20日13:00より東京医科歯科大学B棟16階大会議室にて総会と講演会を行った。

講演会では、立命館大学人間科学研究所講師棟居徳子氏が『日本のがん医療政策と健康権保障～社会保障法学の立場から～』と題して、日本のがん医療政策について法的な視点から講演してくださいました。私たちは、医療に対する国の姿勢を俯瞰的に見る習慣を持ちたいと思う。

**<第4回がん患者大集会に向けてのプレイベント企画、いよいよスタート>**

2008年11月30日の本大会に向け、各地でプレイベントの企画が進められている。山梨県では関東ブロックの一部として9月21日(日)に『第2回山梨がんフォーラム』として山梨県がん対策推進計画をテーマにフォーラムを開催する。サブタイトルは『もっとよくしたい！みんなの声で2008』。山梨県は毎年がん対策推進計画を評価・検討し、次年度に生かすことが推進計画の中に明記されているが、そのための意見交換の場となるよう意識している。これらの取り組みが各地のがん対策推進計画の底上げにつながるよう力をあわせましょう！！



大会を成功させるため、理事長及び実行委員長名義で後援依頼を行います(予定)。ご一読ください。

**【第4回がん患者大集会におけるご後援のお願い】**

拝啓 新緑の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2005年5月大阪NHKホールでの第1回がん患者大集会には全国から約2000人のがん患者・家族が熱い思いをもって集まり、「情報は命です」という痛切な声を受け、がん対策情報センターが開設されました。2006年3月渋谷NHKホールで開催された第2回がん患者大集会の後、あたかもがん患者大集会が後押しをしたような状況で、同年6月がん対策基本法が議員立法により全会一致で成立しました。2007年8月広島で開催した第3回がん患者大集会のテーマ「緩和ケア」は、6月に閣議決定されたがん対策推進基本計画の重点施策の一つに位置づけられ、我々の想いと国の政策が一致し心強さを感じました。このように、がん患者大集会は、日本のがん医療向上に向けた施策の節目節目に、大きな役割を果たしてき

たと考えています。

そしてこの度、第4回がん患者大集会を、がん対策推進都道府県計画が策定された最初の年度にふさわしく、“地域からがん医療を変えていこう”、という趣旨で企画を進めております。民間では初めての利用となる国立がんセンター・がん対策情報センターのテレビ会議システムによる中継で全国を結んで開催いたします(企画書をご覧ください)。

つきましては、誠に恐縮ではございますが、何卒私共の趣旨にご理解とご賛同を賜り、貴機関名によるご後援を賜りたいと存じ、名義使用をご承諾賜りますよう、ここにお願ひ申し上げます。

もしご不明な点等がございましたらご説明に伺わせて戴く所存ですが、この度は、まずは書中をもってお願いをさせていただきます。

なお、ご承諾いただける場合は、お手数ではございますが、別紙にご記入の上、FAXにてご返送くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。 敬具

【会員の皆様へお願い】  
今後、この【Canps News】は原則として隔月で発行したいと考えています。支援機構会員の活動を掲載したいので、是非皆様からも記事をお寄せください。

<編集後記>  
いろいろな分野で改革が行われています。当事者が参画し、よりよい施策が行われようとしています。どれも『絵に描いた餅』にたくなくて躍起になります。でも、「絵に描いた餅も必要かも」って思うことになりました。だって理想はおおきくなくっちゃ、ね。

<文責:若尾 直子>  
[yamanashi\\_mamma@kjb.biglobe.ne.jp](mailto:yamanashi_mamma@kjb.biglobe.ne.jp)  
<事務局>  
[info@canps.net](mailto:info@canps.net)  
[shienkikou2006@yahoo.co.jp](mailto:shienkikou2006@yahoo.co.jp)

\*\*\*\*\*

<<あってもなくてもコラム>>  
「マジメ」にピンクのお洋服を着せたような若尾さん。「マジメ」がリュックを背負ったような中野さん。「マジメ」が後期高齢者になった萌子さん。この3人組が新宿の高層ビル街を歩いていました。その時、突風が吹いたのです。「後期マジメ」のオシャレウィッグが風に舞って、空を飛び、前方の歩道に着地し、コロコロと走り始めました。さて、「三マジメ」はどうしたと思えますか？ 答えは次号。(C・N)

\*\*\*\*\*